

学校コード F112310102413

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部の設置

注1

届出

注2

淑徳大学 地域創生学部

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人大乘淑徳学園

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 埼玉事務部 学事

職名・氏名 タントウカチョウ イソバ ヒロコ
担当課長 磯邊 寛子

電話番号 049-274-1511 (内線: 1114)

(夜間) 049-274-1501

e-mail kyomu@u.shukutoku.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合: 「〇〇大学」
- 学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

地域創生学部

＜地域創生学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大乗淑徳学園

(2) 大学名

淑徳大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字南新埜1150番地1

(〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ハチガワ マサトシ) 長谷川 匡俊 (平成14年4月)		
学長	(ヤマグチ コウジ) 山口 光治 (令和3年4月)		
学部長	(ヤオイ シュンペイ) 矢尾板 俊平 (令和5年4月)		学科長兼務
学科長等	(ヤオイ シュンペイ) 矢尾板 俊平 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
地域創生学部 地域創生学科 学士 (地域創生学)	社会学・社会 福祉学関係	4 年	95 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	380 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
A	入学定員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95	-	0.63倍	-倍	0.63倍	-倍	
	志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	100	(-)					
	受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	98	(-)					
	合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	95	(-)					
	B	入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	60	(-)					
	入学定員超過率	B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.63						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生は記入しないでください。**
- ・ [] 内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
- ・ 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。□
- ・ 「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	60 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	60 [-] (-)	- [-] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	60人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合計		0人		0人	0人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<地域創生学部 地域創生学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
の学習 養育力	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1①	1			1			1			兼1
	利他共生	1①	1									兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	0	0	1	0		兼1
思考力 の養成	情報リテラシー	1①	1									兼3
	データリテラシー	1②	1									兼3
	統計分析法	2①	1	1								兼1
	問題解決法	2②	1			1						
	創造思考法	4④	1			2						
	小計(5科目)	-	4	1	0	2	0	0	0	0		兼4
表現力 の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1①	1									兼1
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1②	1									兼1
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	1④	1									兼1
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2①	1	1								兼1
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1①	1									兼1
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1④	1									兼1
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2①	1			1						兼1
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2②	1	1								兼1
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3①	1	1		1						兼2
	小計(9科目)	-	6	3	0	1	0	0	0	0		兼2
人間力 の養成	自己管理と社会規範	1①	1						1			兼1
	チームワークとリーダーシップ	2①	1							1		兼1
	地域活動と社会貢献	2②	1								1	兼1
	他者理解と信頼関係	2②	1			1						兼1
	小計(4科目)	-	4	0	0	1	0	0	1	0		兼1
社会力 の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2③	1			1						
	社会的・職業的自立Ⅱ	2④	1			1						
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0	0	
人間の 理解	人間心理と人間行動	2・3・4①	1						1			兼1
	現代家族と育児介護	2・3・4①	1									兼1
	健康管理と身体活動	2・3・4②	1									兼1
	スポーツと運動科学	2・3・4④	1									兼1
	日本社会と歴史文化	2・3・4②	1			1				1		兼1
	生命科学と物理化学	2・3・4③	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	1	0	0	2	0		兼3
社会の 理解	情報社会とデータサイエンス	2・3・4②	1									兼1
	法律社会と法律問題	2・3・4①	1									兼1
	福祉政策と福祉制度	2・3・4②	1									兼1
	日本国家と政治行政	2・3・4②	1			1						兼1
	経済構造と経済政策	2・3・4③	1			1						兼1
	現代医療と生命倫理	2・3・4①	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	2	0	0	0	0		兼4
国際 の理解	国際社会と国際問題	2・3・4④	1									兼1
	世界宗教と民族問題	2・3・4②	1									兼1
	世界動向と国際貢献	2・3・4②	1									兼1
	国際平和と安全保障	2・3・4②	1									兼1
	国際関係と日本外交	2・3・4③	1						1			兼1
	地球環境と環境対策	2・3・4①	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	0	0	0	1	0		兼4

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
の学習 養育力	初年次セミナー(学習の目的と技術)	1①	1			1			1			兼1
	利他共生	1①	1									兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	0	0	1	0		兼1
思考力 の養成	情報リテラシー	1①	1									兼3
	データリテラシー	1②	1									兼3
	統計分析法	2①	1	1								兼1
	問題解決法	2②	1			1						
	創造思考法	4④	1			2						
	小計(5科目)	-	4	1	0	2	0	0	0	0		兼4
表現力 の養成	コミュニケーション英語Ⅰ(基礎)	1①	1									兼2
	コミュニケーション英語Ⅱ(応用)	1②	1									兼2
	コミュニケーション英語Ⅲ(実践)	1④	1									兼2
	コミュニケーション英語Ⅳ(実践)	2①	1	1								兼1
	表現技法Ⅰ(読解・分析)	1①	1									兼1
	表現技法Ⅱ(作文・論文)	1④	1									兼1
	表現技法Ⅲ(発表・討論)	2①	1			1						兼1
	表現技法Ⅳ(企画・立案)	2②	1	1								兼1
	表現技法Ⅴ(プレゼンテーション)	3①	1	1		1						兼2
	小計(9科目)	-	6	3	0	1	0	0	0	0		兼4
人間力 の養成	自己管理と社会規範	1①	1							1		兼1
	チームワークとリーダーシップ	2①	1									兼1
	地域活動と社会貢献	2②	1								1	兼1
	他者理解と信頼関係	2②	1			1						兼1
	小計(4科目)	-	4	0	0	1	0	0	1	0		兼1
社会力 の養成	社会的・職業的自立Ⅰ	2③	1			1						
	社会的・職業的自立Ⅱ	2④	1			1						
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0	0	
人間の 理解	人間心理と人間行動	2・3・4①	1							1		兼1
	現代家族と育児介護	2・3・4①	1									兼1
	健康管理と身体活動	2・3・4②	1									兼1
	スポーツと運動科学	2・3・4④	1									兼1
	日本社会と歴史文化	2・3・4②	1			1				1		兼1
	生命科学と物理化学	2・3・4③	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	1	0	0	2	0		兼3
社会の 理解	情報社会とデータサイエンス	2・3・4②	1									兼1
	法律社会と法律問題	2・3・4①	1									兼1
	福祉政策と福祉制度	2・3・4②	1									兼1
	日本国家と政治行政	2・3・4②	1			1						兼1
	経済構造と経済政策	2・3・4③	1			1						兼1
	現代医療と生命倫理	2・3・4①	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	2	0	0	0	0		兼4
国際 の理解	国際社会と国際問題	2・3・4④	1									兼1
	世界宗教と民族問題	2・3・4②	1									兼1
	世界動向と国際貢献	2・3・4②	1									兼1
	国際平和と安全保障	2・3・4②	1									兼1
	国際関係と日本外交	2・3・4③	1							1		兼1
	地球環境と環境対策	2・3・4①	1									兼1
	小計(6科目)	-	0	6	0	0	0	0	1	0		兼4

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」を「兼1」から「兼2」へ変更。
- ・専任教員の就任遅延により、「地域理解実習Ⅰ」を「教授4」から「教授3」へ変更。
- ・専任教員の就任遅延により、「地域理解実習Ⅳ」を「教授2」から「教授1」へ変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
47 科目	37 科目	0 科目	84 科目	47 科目 [0]	37 科目 [0]	0 科目 [0]	84 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{84} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体
	校舎敷地	113,161.02 m ²	0 m ²	0 m ²	113,161.02 m ²	・千葉キャンパス 109,182.41m ² 総合福祉学部、 コミュニティ政策学 部、看護栄養学 部専用 内、借上面積： 5,896.15m ² 借用期間： H3.1.1～ H54.3.31
	運動場用地	82,106.86 m ²	0 m ²	0 m ²	82,106.86 m ²	・千葉第二キャンパス 16,774.73m ² 看護栄養学部専 用 内、借上面積： 16,774.73m ² 借用期間： H18.4.1から 30年間 ・埼玉キャンパス 54,810.00m ² 教育学部、地域 創生学部専用 ※運動場用地 教育学部、地域 創生学部、経営 学部、人文学部 と共用
	小 計	195,267.88 m ²	0 m ²	0 m ²	195,267.88 m ²	・東京キャンパス 14,500.74m ² 経営学部、人文 学部、淑徳大学 短期大学部と令 和5年度末まで 共用 内、借上面積： 2,020.50m ² 借用期間： H18.4.1から30 年間
	そ の 他	6,880.96 m ²	0 m ²	0 m ²	6,880.96 m ²	短期大学設置基準 6,800m ²
	合 計	202,148.84 m ²	0 m ²	0 m ²	202,148.84 m ²	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体
		77,294.62m ² 77,864.37m²	0m ²	0m ²	77,294.62m ² 77,864.37m²	・東京キャンパス 淑徳大学短期大学部と 令和5年度末まで共用 短期大学設置基準 5,750m ² ・板橋区前野町日本語 学校施設を大学施設に 用途変更 (997.68m ²) 及び千葉キャンパス6 号館を老朽化のため取 り壊し (1,567.43m ²) (2022年度届出済) (5)
(3) 教 室 等	講 義 室					大学全体
		106室 112室	73室 63室	38室 28室	21室 (補助職員 0人)	・板橋区前野町日本語 学校施設を大学施設に 用途変更 (997.68m ²) 及び千葉キャンパス6 号館を老朽化のため取 り壊し (1,567.43m ²) による増減 (2022年度 届出済) (5)
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		
	地域創生学部地域創生学科			12 室		

(5)	図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナルは、学部単位での特定不能なため、大学全体の数	
		地域創生学部 地域創生学科	193,242 [32,322] (180,722[31,594])	944 [205] (576[156])	(12,904 [12,904]) (12,854[12,847])	5,005 (4,972)	3,668 (4,003)	9 (8)		
		計	193,242 [32,322] (180,722[31,594])	944 [205] (576[156])	(12,904 [12,904]) (12,854[12,847])	5,005 (4,972)	3,668 (4,003)	9 (8)		
(6)	図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		6,483.77㎡	912		579,928					
(7)	体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,051.88㎡	テニスコート3面、弓道場、武道場							
(8)	経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は、大学全体	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	6,786千円	2,560千円	2,560千円		
		共同研究費等	15,300千円	15,300千円	設備購入費	17,050千円	3,000千円	3,000千円	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む	
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,400千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	淑徳大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
総合福祉学部	4	450	-	1800	-	1.03	-	1.02	-	-	昭和40	千葉県千葉市大塚寺町200						
社会福祉学科	4	200	-	800	学士(社会福祉学)	0.99	-	0.98	-	-	昭和40	同上						
教育福祉学科	4	150	-	600	学士(教育福祉学)	1.05	-	1.05	-	-	平成23	同上						
実践心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	1.09	-	1.07	-	-	平成13	同上						
コミュニティ政策学部	4	95	-	380	-	1.11	-	1.12	-	-	平成22	同上						
コミュニティ政策学科	4	95	-	380	学士(コミュニティ政策学)	1.11	-	1.12	-	-	平成22	同上						
看護栄養学部	4	180	-	720	-	1.04	-	1.01	-	-	平成19	千葉県千葉市中央区仁戸名町673						
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.10	-	1.06	-	-	平成19	同上						
栄養学科	4	80	-	320	学士(栄養学)	0.97	-	1.04	-	-	平成24	同上						
経営学部	4	240	-	840	-	1.02	-	0.98	-	令和5	平成24	東京都板橋区前野町6-36-4	R5年度から埼玉から東京へ移転					
経営学科	4	150	-	480	学士(経営学)	1.04	-	0.98	-	令和5	平成24	同上	R5年度から入学定員変更(110→150)					
観光経営学科	4	90	-	360	学士(観光経営学)	1.00	-	0.97	-	-	平成24	同上						
教育学部	4	150	-	600	-	0.90	-	0.89	-	令和2	平成25	埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1						
こども教育学科	4	150	-	600	学士(教育学)	0.90	-	0.89	-	令和2	平成25	同上	令和2年度から入学定員変更(100→150)					
人文学部	4	245	-	680	-	1.08	-	1.08	-	-	平成26	東京都板橋区前野町6-36-4						
歴史学科	4	60	-	240	学士(文学)	1.07	-	1.09	-	-	平成26	同上						
表現学科	4	85	-	340	学士(文学)	1.09	-	1.07	-	-	平成26	同上						
人間科学科	4	100	-	100	学士(人間科学)	1.07	-	1.07	-	-	令和5	同上						
地域創生学部	4	95	-	95	-	0.63	-	0.63	-	-	令和5	埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1						
地域創生学科	4	95	-	95	学士(地域創生学)	0.63	-	0.63	-	-	令和5	同上						
大学全体	4	1455	-	5115	-	1.03	-	1.00	-	-	-	-						

大学の名称	淑徳大学短期大学部										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
こども学科	2	-	-	-	短期大学士(保育・教育)	-	-	-	-	-	平成18	東京都板橋区前野町6-36-4	令和5年度入学生より募集停止					
健康福祉学科	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	平成3	東京都板橋区前野町6-36-4	令和5年度入学生より募集停止					
社会福祉専攻	2	-	-	-	短期大学士(社会福祉)	-	-	-	-	-	平成3	同上	令和5年度入学生より募集停止					
介護福祉専攻	2	-	-	-	短期大学士(社会福祉)	-	-	-	-	-	平成3	同上	令和5年度入学生より募集停止					
短期大学部全体	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。□
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<地域創生学部 地域創生学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	野田 陽子 (69) <令和5年4月> 文学修士
		問題解決法 創造思考法 社会的・職業的自立Ⅰ 社会的・職業的自立Ⅱ 地域創生総論※ 社会学 社会集団・組織論 社会問題論※
専	教授	中島 正博 (59) <令和5年4月> 博士(経済学)
		経済構造と経済政策 地域創生総論※ 地域経済・財政論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	教授	高木 亨 (52) <令和5年4月> 博士(地理学)
		地域創生総論※ 地理学 資源論 比較地域論 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	野田 陽子 (69) <令和5年4月> 文学修士
		問題解決法 創造思考法 社会的・職業的自立Ⅰ 社会的・職業的自立Ⅱ 地域創生総論※ 社会学 社会集団・組織論 社会問題論※
専	教授	中島 正博 (59) <令和5年4月> 博士(経済学)
		経済構造と経済政策 地域創生総論※ 地域経済・財政論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	教授	高木 亨 (52) <令和5年4月> 博士(地理学)
		地域創生総論※ 地理学 資源論 比較地域論 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡邊 誠 (50) <令和5年4月> 修士(経済学)
		地域産業資源論 地域産業政策論 新事業・商品開発論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	教授	石田 仁 (48) <令和5年4月> 博士(社会学)
		創造思考法 表現技法Ⅲ(発表・討論) 表現技法Ⅳ(企画・立案) 表現技法Ⅴ(プレゼンテーション) 他者理解と信頼関係 日本社会と歴史文化※ 社会構造・変動論 社会政策・制度論 社会問題論※ 地域社会・文化論※ 地域理解実習Ⅱ
専	教授	内山 大介 (46) <令和5年4月> 修士(歴史民俗資料学)
		地域創生総論※ 文化学 地域社会・文化論※ 地域文化活動論※ 地域文化政策論※ 文化財・文化施設論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	渡邊 誠 (50) <令和6年4月> 修士(経済学)
		地域産業資源論 地域産業政策論 新事業・商品開発論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	教授	石田 仁 (48) <令和5年4月> 博士(社会学)
		創造思考法 表現技法Ⅲ(発表・討論) 表現技法Ⅳ(企画・立案) 表現技法Ⅴ(プレゼンテーション) 他者理解と信頼関係 日本社会と歴史文化※ 社会構造・変動論 社会政策・制度論 社会問題論※ 地域社会・文化論※ 地域理解実習Ⅱ
専	教授	内山 大介 (46) <令和5年4月> 修士(歴史民俗資料学)
		地域創生総論※ 文化学 地域社会・文化論※ 地域文化活動論※ 地域文化政策論※ 文化財・文化施設論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	矢尾板 俊平 (44) ＜令和5年4月＞ 博士(総合政策)
		初年次セミナー(学習の目的と技術) 日本国家と政治行政 地域創生総論※ 経済学 人口論 地域経済・財政論※ 地域政策・制度論 卒業研究
専	准教授	森屋 雅幸 (40) ＜令和5年4月＞ 博士(学術)
		文化社会学 地域振興・交流論 地域文化活動論※ 地域文化資源論 地域文化政策論※ 文化財・文化施設論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	講師	唐澤 克樹 (39) ＜令和5年4月＞ 修士(政策科学)
		産業社会学 地域産業・企業論 地域中小企業論 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	矢尾板 俊平 (44) ＜令和5年4月＞ 博士(総合政策)
		初年次セミナー(学習の目的と技術) 日本国家と政治行政 地域創生総論※ 経済学 人口論 地域経済・財政論※ 地域政策・制度論 卒業研究
専	准教授	森屋 雅幸 (40) ＜令和5年4月＞ 博士(学術)
		文化社会学 地域振興・交流論 地域文化活動論※ 地域文化資源論 地域文化政策論※ 文化財・文化施設論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究
専	講師	唐澤 克樹 (39) ＜令和5年4月＞ 修士(政策科学)
		産業社会学 地域産業・企業論 地域中小企業論 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅳ 地域理解実習Ⅴ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用入門※ 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	石綿 寛 (42) <令和5年4月> 博士(学術)
		初年次セミナー(学習の目的と技術) 自己管理と社会規範 地域活動と社会貢献 国際関係と日本外交 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ
専	助教	市東 真一 (30) <令和5年4月> 博士(歴史民俗資料学)
		日本社会と歴史文化※ 地域文化活動論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ
専	助教	木暮 美菜 (27) <令和5年4月> 修士(社会学)
		人間心理と人間行動 社会心理学 新事業・商品開発論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅱ 地域理解実習Ⅵ 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	石綿 寛 (42) <令和5年4月> 博士(学術)
		初年次セミナー(学習の目的と技術) 自己管理と社会規範 地域活動と社会貢献 国際関係と日本外交 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ
専	助教	市東 真一 (30) <令和5年4月> 博士(歴史民俗資料学)
		日本社会と歴史文化※ 地域文化活動論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅲ 地域理解実習Ⅵ 地域調査法入門 地域調査法演習 地域調査法実習 地域資源活用演習 地域資源活用実習 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ
専	助教	木暮 美菜 (27) <令和5年4月> 修士(社会学)
		人間心理と人間行動 社会心理学 新事業・商品開発論※ 地域理解実習Ⅰ 地域理解実習Ⅱ 地域理解実習Ⅵ 地域創生実習Ⅰ 地域創生実習Ⅱ 地域創生実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	井上 善美 (52) ＜令和7年4月＞ 博士(経営学)
		新事業・商品開発論※
兼任	教授	藤森 雄介 (54) ＜令和5年4月＞ 修士(社会福祉学)
		利他共生 福祉政策と福祉制度
兼任	准教授	畑江 美佳 (58) ＜令和5年4月＞ 博士(総合社会文化)
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎) コミュニケーション英語Ⅱ(応用) コミュニケーション英語Ⅲ(実践) コミュニケーション英語Ⅳ(実践)
兼任	教授	齊藤 鉄也 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(政策・メディア)
		統計分析法 情報社会とデータサイエンス
兼任	教授	葉山 彩蘭 (60) ＜令和6年11月＞ 博士(経営学)
		国際社会と国際問題
兼任	教授	岩村 沢也 (66) ＜令和6年6月＞ 国際学修士
		世界動向と国際貢献 国際平和と安全保障
兼任	准教授	齋藤 京子 (51) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)
		現代医療と生命倫理
兼任	助教	増淵 まり子 (44) ＜令和6年6月＞ 学士(体育学)
		健康管理と身体活動 スポーツと運動科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	井上 善美 (52) ＜令和7年4月＞ 博士(経営学)
		新事業・商品開発論※
兼任	教授	藤森 雄介 (54) ＜令和6年6月＞ 修士(社会福祉学)
		利他共生 福祉政策と福祉制度
兼任	准教授	畑江 美佳 (58) ＜令和6年4月＞ 博士(総合社会文化)
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎) コミュニケーション英語Ⅱ(応用) コミュニケーション英語Ⅲ(実践) コミュニケーション英語Ⅳ(実践)
兼任	教授	齊藤 鉄也 (51) ＜令和6年4月＞ 修士(政策・メディア)
		統計分析法 情報社会とデータサイエンス
兼任	教授	葉山 彩蘭 (58) ＜令和6年11月＞ 博士(経営学)
		国際社会と国際問題
兼任	教授	岩村 沢也 (65) ＜令和6年6月＞ 国際学修士
		世界動向と国際貢献 国際平和と安全保障
兼任	准教授	齋藤 京子 (50) ＜令和6年4月＞ 博士(医学)
		現代医療と生命倫理
兼任	助教	増淵 まり子 (43) ＜令和6年6月＞ 学士(体育学)
		健康管理と身体活動 スポーツと運動科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	松家 まきこ(麻記子) (52) ＜令和6年4月＞ 学士(家政学)
		現代家族と育児介護
兼任	教授	松原 健司 (61) ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		チームワークとリーダーシップ 生命科学と物理化学 地球環境と環境対策
兼任	講師	石川 恵理子 (65) ＜令和5年4月＞ 文学士
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	松本 英美 (65) ＜令和5年4月＞ 芸術学士
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	寺田(早川) 倫子 (46) ＜令和5年4月＞ 学士(外国文化学)
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	八木 直也 (71) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		表現技法Ⅰ(読解・分析) 表現技法Ⅱ(作文・論文)
兼任	講師	鶴 恒介 (53) ＜令和6年4月＞ 修士(法律学)
		法律社会と法律問題
兼任	講師	松野(我妻) 智章 (53) ＜令和6年6月＞ 博士(宗教学)
		世界宗教と民族問題

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	松家 まきこ(麻記子) (51) ＜令和6年4月＞ 学士(家政学)
		現代家族と育児介護
兼任	教授	松原 健司 (60) ＜令和6年4月＞ 博士(理学)
		チームワークとリーダーシップ 生命科学と物理化学 地球環境と環境対策
兼任	教授	矢幅 清司 (63) ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		利他共生
兼任	講師	石川 恵理子 (65) ＜令和5年4月＞ 文学士
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	松本 英美 (65) ＜令和5年4月＞ 芸術学士
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	寺田(早川) 倫子 (47) ＜令和5年4月＞ 学士(外国文化学)
		情報リテラシー データリテラシー
兼任	講師	八木 直也 (71) ＜令和5年4月＞ 文学修士
		表現技法Ⅰ(読解・分析) 表現技法Ⅱ(作文・論文)
兼任	講師	鶴 恒介 (52) ＜令和6年4月＞ 修士(法律学)
		法律社会と法律問題
兼任	講師	松野(我妻) 智章 (52) ＜令和6年6月＞ 博士(宗教学)
		世界宗教と民族問題

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	Jonathan Hammond (61) <令和5年4月> 学士 (アメリカ)
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎) コミュニケーション英語Ⅱ(応用) コミュニケーション英語Ⅲ(実践)
兼任	講師	Alex Brown (51) <令和5年4月> 学士 (アメリカ)
		コミュニケーション英語Ⅰ(基礎) コミュニケーション英語Ⅱ(応用) コミュニケーション英語Ⅲ(実践)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は本字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科の授業科目名を記入するとともに、下記

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・自己都合により、渡邊誠教授の就任が令和5年4月から令和6年4月に遅延。
- ・畑江美佳講師の都合により、担当科目を3科目削除。
- ・Jonathan Hammond講師が、新しく科目を担当することになり就任、3科目追加。
- ・Alex Brown講師が、新しく科目を担当することになり就任、3科目追加。
- ・藤森雄介講師の都合により、担当科目を1科目削除。
- ・矢幅清司講師が、新しく科目を担当することになり就任、1科目追加。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	6
12	
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
7	1	1	3	12	0	6	1	1	3	11	0
(6)	(1)	(1)	(3)	(11)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
7	1	1	3	12	0	7	1	1	3	12	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{11} = \boxed{9.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	渡邊 誠		選択	地域産業資源論	③	就任辞退ではなく、自己都合により、令和6年4月に就任時期遅延。						
				選択	地域産業政策論	③							
				選択	新事業・商品開発論	③							
				必修	地域理解実習Ⅰ	①							
				必修	地域理解実習Ⅳ	①							
				必修	地域理解実習Ⅴ	③							
				必修	地域理解実習Ⅵ	③							
				必修	地域資源活用演習	③							
				必修	地域資源活用実習	③							
				必修	地域創生実習Ⅰ	③							
				必修	地域創生実習Ⅱ	③							
必修	地域創生実習Ⅲ	③											
必修	卒業研究	③											
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	10	科目	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	8	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	13	科目	計	2	科目	計	0	科目	計	11	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	10 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	8 科目
	選択	3 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	3 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	13 科目	計	2 科目	計	0 科目	計	11 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{12} = \boxed{8.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>教授 渡邊誠の就任遅延に係る大学の所見及び学生への周知</p> <p>大学の所見 淑徳大学地域創生学部地域創生学科は12名で届出。開設時の専任教員数は11名。設置基準の要件を満たしている。 また、就任遅延教員が令和5年度に担当する科目については、実習科目で複数の専任教員が共同で担当するため、授業に支障はない。</p> <p>学生への周知方法 4月のオリエンテーションにおいて、令和5年度の授業科目は担当しないこと、及び令和6年度より就任予定である旨を説明した。</p>

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
届 出 時 (令和4年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<地域創生学部 地域創生学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更なし	変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>○FD活動</p> <p>下記内容は令和4年度埼玉キャンパスのFD活動の取組みが中心。令和5年度からは地域創生学部も実施。</p> <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会等の設置状況</p> <p>令和5年度 地域創生学部教育向上委員会を設置 学部教育向上委員会規程（資料1）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和4年度は月1回開催（教員5名、職員1名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員会について ・教員相互の授業公開・参観の実施について ・授業アンケートの実施について ・FD研修会の内容について <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修 <ul style="list-style-type: none"> （1）全教員会 （2）FD研修会 ・授業評価アンケート ・教員相互の授業参観 ・「FD成果報告書」の発行 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修 <ul style="list-style-type: none"> （1）全教員会 全教員会は、前期（4月）、後期（9月）に開催する。全教員会は学部が所在するキャンパス全体で実施し、参加教員は、専任教員及び兼任教員としている。全体会と分科会の2部構成になっており、大学の運営方針、学部学科の教育方針、授業体系等の説明を行い、授業担当教員が共通理解を持ち、今後の授業計画、授業改善の検討の場と位置づけている。 （2）FD研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスFD研修会 テーマ「新入生調査の結果と学部の特徴」
--

全学実施の「新入生調査」の結果と各学部の特徴をIR推進室から報告いただき、各学部・学科として、今後どのように教育・学習支援を改善できるか等の検討に活用する。

・シラバス作成FD研修会

学生の修学意欲を促進させるために、シラバスが授業の事前準備や事後の展開などの指針、授業の工程表として機能し、その授業計画に基づいて適切に教育研究指導を行うことができるようなシラバス作成を行う。

・学部FD研修会 「履修モデルにおける到達目標の確認、各分野における学修到達目標について」

履修モデル別に、「履修体系図に基づいた到達目標の順次性」に基づき、各科目の到達目標を確認し、「地域創生実習」では、どのような「調査」や「体験型」の活動を行うと相乗効果があるか意見交換を行った。また、学際的な「地域創生学」を構成する各分野で学んでおくべき理論、概念、知識とは何か」について意見交換を行い、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」との関係性を整理した。

・授業評価アンケート

大学の自己点検強化の一環として授業点検調査を行い、①学部全体②個別授業の活性化・改善③学生の受講姿勢の改善を図る資料とする。各学期毎、全授業を対象として実施（体育実技、専門演習、実践科目を除く）

・教員相互の授業参観

教員相互の啓発的な学びにより、教育機能の伸長を図り、さらなる魅力的な授業を学生に提供し、学生の能力向上に資する方法とする。前後期共2授業以上必ず参観し、「公開授業成果報告書」を作成・提出する。

・FD成果報告書の発行

年度のFD活動結果を報告書のみだけでなく、FD成果報告書として発行し、より深い理解を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・教員研修

（1）全教員会

- ・令和5年度 令和5年3月25日（土）開催 地域創生学部は令和5年度専任教員着任予定者11名参加
大学FD テーマ「令和5年度以降の大学の方向性について」
分科会 地域創生学部テーマ「学部の運営方針と当面の課題について」

（2）FD研修会

- ・キャンパスFD研修会 テーマ「2022年度新入生調査の結果と学部の特徴」
令和4年10月18日（火）開催 32名（キャンパス専任教員全員参加）
- ・シラバス作成FD研修会
令和4年11月29日（火）開催 地域創生学部 令和5年度専任教員着任予定者11名参加
- ・学部FD研修会 「履修モデルにおける到達目標の確認、各分野における学修到達目標について」
令和5年1月31日（火）Zoom開催 地域創生学部 専任教員着任予定者12名参加
- ・教員相互の授業公開・参観の実施について
前学期 令和5年4月24日（月）～7月14日（金） 後学期 令和5年10月2日（月）～12月15日（金）
専任教員は前期・後期の公開期間において、必ず2授業以上実施する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各学部におけるFD活動は、各教員の授業改善や学生指導法の改善、研究活動の改善などに役立っている。

- ・授業アンケート実施により、教員は学生からの評価および自身の授業に関する自己点検を比較し、今後の授業の改善に努めている。
- ・教員相互の授業参観は、参観した結果を公開者に「学ぶべき事項」、「改善事項」を提出し、公開者はコメントを記入の上、報告書を提出する。公開者は、参観者からのコメントを授業にどのように活かすかを検討し、次期からの授業改善に役立たせている。
- ・FD研修会は、各教員が実践する教授法の事例を学び、意見交換を行うことで、今後の授業改善に役立っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施

a 実施の有無及び実施時期

各学期の授業開始から13回目から15回目の授業終了後にWEB上でアンケートを実施している。

アンケート結果については、集計結果報告書を発刊し、学内で閲覧可能としている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

大学全体でまとめた報告書を、大学教育向上委員会及び高等教育研究センターが作成、発刊する。
公開方法は、大学ホームページにて公開をしている。

OSD研修会

- ・テーマ「地域創生学部設置と教育内容について」 令和4年5月31日（火）開催
講師：地域創生学部設置担当 対象者：教育学部長・学科長、本務職員
- ・テーマ「地域創生学部におけるクォーター制について」 令和4年10月31日（木）開催
講師：地域創生学部設置担当 対象者：本務職員
- ・テーマ「地域創生学部の理念と教育システムについて」 令和5年3月7日（火）開催
講師：地域創生学部長予定者 対象者：本務教職員

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙のとおり（資料2）

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年度に令和5年度分の公開を予定している。

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、教職員に配布する予定である。
・大学ホームページ上に公開を予定している。

③ 認証評価を受ける計画

・2018（平成30）年に、淑徳大学は「大学基準協会の大学基準に適合していると認定された。
認定の期間は2026（平成38）年3月31日まで

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

○淑徳大学学部教育向上委員会規程

資料 1

(趣旨)

第 1 条 この規程は、淑徳大学教育向上に関する規程第 6 条第 2 項に基づき、学部教育向上委員会（以下「委員会」という。）について定める。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の事項を取り扱う。

- (1) 科目間連携及び授業計画の改善に関する事項
- (2) 教育指導法、授業方法等の改善及び向上に関する事項
- (3) 教育評価に関する事項
- (4) 教職員研修に関する事項
- (5) その他の必要な事項

(事業)

第 3 条 前条の実施に当たっては、次の事業を行う。

- (1) 教育改善に向けた調査
- (2) 教育改善に関する教職員研修
- (3) 授業公開
- (4) 教育改善に関する報告書の作成
- (5) その他の必要な事項

(構成)

第 4 条 委員会は、委員長及び委員若干名で構成する。

2 委員長及び委員は、学部の専任教員及び事務職員の中から、学部長が委嘱する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集)

第 6 条 委員会は、委員長が招集する。

(学部長への報告)

第 7 条 委員会で検討・審議した事項については、委員長は、これを学部長に報告する。

(高等教育研究開発センターへの報告)

第 8 条 委員会で検討・審議した事項については、委員長は、これを高等教育研究開発センターに報告する。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、事務局が担当する。

(その他)

第10条 この規程の運用に当たっては、高等教育研究開発センターと協働して、各学部の現状に合わせて取り扱うものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行に伴い総合福祉学部 教育向上推進委員会規程、総合福祉学部 教育向上推進要領、社会福祉学科 教育向上推進小委員会規程、教育福祉学科 教育向上推進小委員会規程、実践心理学科 教育向上推進小委員会規程、教育向上推進委員会規程（国際コミュニケーション学部）、看護栄養学部 教育向上推進委員会規程、看護栄養学部 教育向上推進要領、コミュニティ政策学部 教育向上推進委員会規程、コミュニティ政策学部 教育向上推進要領及び教育向上推進委員会規程（経営学部）は、平成25年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(1)設置趣旨と目的

わが国の人口構造や社会構造は、人口増加から人口減少の局面へと転換し、少子化や高齢化も進展する中で、多様な社会や地域の課題を地域自らが解決していくことが求められる時代となった。このような中で、国は「地方創生」を重要政策課題として掲げるとともに、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的かつ持続的で、魅力あふれる地域を創生することを目指している。

このような中で、地域創生とは、地域の住民が共有する価値や歴史的な文脈を通じて形成された文化を背景に、その地域が持つ潜在力を最大限に発揮することができる環境を形成していくことで、その地域の社会福祉の増進を目指すことであると定義できる。これは、本学が掲げる大学としての使命でもある「社会開発」、「地域開発」という言葉にも通ずるものである。

地域創生に貢献する人材には、地域の社会構造を理解するとともに、地域経済を支える産業について理解していることが求められる。地域社会の価値や潜在力とは、歴史的な連続性の中で形成されてきた地域文化により醸成されてきたものである。それゆえに、地域社会、地域産業、地域文化の三つの視点を統合し、立体的な視野を構築し、調査に基づく思考・考察力を養成することが必要不可欠である。

このような現代的な時代要請に基づき、地域創生学部は、これまで本学が六学部十一学科で展開してきた学部学科が蓄積してきた教育研究資源を活かし、利他共生、感恩奉仕の精神に基づき、社会改善の実践者を育成するための使命を持つ学部として設置された。

こうした趣旨に基づき、「地域の見方や考え方を理解させ、実践的かつ体験的な学習活動を通して、地域資源の活用による地域文化の振興や地域産業の発展を担う職業人として必要な資質や能力を育成する」ことを、教育上の目的とし、この目的を達成するための教育研究活動を展開することが本学部の使命であると考えている。

(2)入学者の状況

令和5年度入試において、入学定員95名に対して、志願者数はすべての入試を合わせて100名であった。最終的な入学者は60名（対定員0.63倍）であった。また、このうち7割が埼玉県と東京都に所在する高等学校からの進学者であった。

この結果からは、本学部の設置趣旨や目的が埼玉県内及び東京都内を中心とした高等学校や受験生の要望や関心に一定程度、適合していたことが確認される。一方で、近年は、「経済学」や「経営学」といった「わかりやすい」学部名への人気が高まっていることもあり、「地域創生学」の受験生に対する誘因力の働きが、それらの学部と比較すると、弱かった点は否めない。「年内合格」等がキーワードになるなど、受験生がオープンキャンパス等を訪れ、志願先を検討したり、絞り込んだりする時期が、年々、早まっている傾向もあり、令和

5年度入試での募集広報が、むしろ、令和6年度入試での募集広報に影響を与えた可能性も考えられる。

(3)教育及び学生支援の状況

設置から1か月を経た段階であるので、設置目的の達成状況については判断が難しいと言えるが、現時点での学生の教育・指導や支援については、以下のような状況である。

①内部質保証システムの導入

学部の開設準備にあたって、学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づき、「地域創生を担う人材に必要な能力・知識・コンピテンシー」に基づき、四年間の学修到達目標を設定し、その達成を保証するための組織的な教育が実施できる体制を整えた。「地域創生を担う人材に必要な能力・知識・コンピテンシー」は、地域創生に関わる社会の実務家にインタビューなどを通じて検討を行ったものである。

この学修到達目標に応じて、学修成果を可視化するために、学部独自の「学修ルーブリック」を作成し、段階的に学修成果を把握し、評価するとともに、「学修ポートフォリオ」に基づいた学生個々の学修成果に基づき、教員が指導を行う仕組みを導入した。これにより、定期的にアドバイザー教員が学生の学修成果・到達度を確認し、把握し、助言・指導を行うことで、学生が自身の夢や目標に向かって、成長を実感しながら学修を進めていくことを可能とした。

②4学期制の導入

授業科目を短時間で集中的に履修することにより、学生の自主的な学習やより密度の高い学習の促進による教育効果の向上を目指すとともに、学外実習に参加しやすい学習環境を整えることから、一年を4学期に分けて運用する4学期制（クォーター制度）を導入した。また4学期制（クォーター制度）したことにより、専ら地域実習に充てることのできる曜日を設定することができるようになったことで、本学の教育の特徴である地域実習の効果を高める効果が期待できる。

③地域実習

教育課程に関しては、届け出た1年次開講の科目はすべて開講されている。その中でも、本学部の特徴として、地域の社会福祉の増進に貢献し、社会改善のための実践者や事業家を要請するために有効な学修方法として、「地域実習」を位置付けており、地域理解実習Ⅰでは「みよし学」をテーマに、地域創生学部が所在する埼玉キャンパス周辺地域に対する理解を深める学習が開始されている。地域理解実習Ⅰでは、埼玉県三芳町長にも講演を頂くなど、学生にとって魅力的な授業が展開されている。

「地域理解実習Ⅰ～Ⅵ」は、地域の多様な実情について現地視察を通して直接的に観察す

ることで多面的に理解させる科目として位置付けられているが、第 2 学期からは、地域実習の対象範囲を広げ、三芳町、富士見市、八潮市、笠間市で学修活動を展開していく予定である。

「地域実習」は、地域を訪問したり、長期滞在をすることを通じて、地域の産業や文化、社会構造、さらには地域の人々の生活（営み）について調査し、地域の人々との話し合いを通じて、その地域が有する資源（潜在力）を活かした地域創生策を提案し、試行する一連のプロセスで構成されるプログラムである。特に、地域実習先とは、大学としても、また学生個人としても、継続的な互惠関係を構築し、学生の成長と地域の発展の両立を目指す。

現在、本学部の開設に合わせて新設された地域創生教育研究センターでは、地域実習の計画立案及び実施支援を、その目的とし、運営がなされている。実習の「受け入れ先」も届出時点からも増加しており、静岡県掛川市、岩手県遠野市等が加わっている。

④新入生セミナー

新入生の大学生活への適応を支援するとともに、地域実習の体験を行うため、4月上旬には「新入生セミナー」を茨城県笠間市で開催した。セミナーにおいては、笠間市内の「笠間陶芸の丘」にて伝統工芸品である笠間焼に関わる体験や、笠間稲荷神社エリアの中心市街地の散策・フィールドワークを行うなど、伝統文化や産業、地域活性化に関わる現場を見学し、地域創生の学修の第 1 歩とした。当日は、笠間市長もお越しになり、激励の言葉を頂戴するなど、地域創生学部への期待の高さを確認することができた。

(4)総括的評価・所見

本学部の教育目的は明確であり、学部の教育方針や運営方針が、学部の専任教員の間で共有され、教育間連携・教職協働に基づき、役割と責任を分担しながら、組織的な教育研究・社会連携活動を展開することができる準備が進められてきた。この点については、令和 5 年度の開設 1 年目としては概ね順調であると言える。

4 年後に、地域社会を支える人材を社会に輩出していくためには、学生の学修意欲の向上を継続的に図っていく必要がある。この点は、地域実習も含め、魅力的な教育内容を展開できるかどうかが問われており、教職が一体となって組織的に取り組んでいく必要がある。一方で、教員アドバイザーによる面談及び出席状況の把握等の学生支援の取り組みを通じて、退学につながる要因を早期に発見し、具体的な対策をきめ細かく実施することが肝要である。特に、物価高等、景気の状態によっては、経済的な理由による退学のリスクが高まることから、学内外の奨学金の情報を学生に提供し、適切に奨学金等の支援が必要な学生がその機会にアクセスをできるようにすることが重要であると考えている。

さらに学生の意見を学部教育の活動にも積極的に採り入れていくことが、学部教育の魅力の向上につながると考えられることから、学部独自に、学生の「学びの満足度」調査を各クォーターの終了時に実施するとともに、毎回、ポジティブな意見（満足している・大変満

足している) の回答が 70%以上を超えることを目標とする。さらに、教育内容は研究に裏付けられることから、地域創生に関わる共同研究テーマを設定し、学術研究と現場の実践における「暗黙知」を結び付け、「淑徳大学地域創生学部でしか学べない」『学び』を創り出していくことが大切であると考えている。

自治体や産業界からは、本学部の社会的な存在価値を大いに評価いただいております、強い期待を頂いている。こうした流れを高等学校や受験生にもわかりやすく伝えていくことにより、地域創生学部の受験生のすそ野を広げていくことで、安定的な定員確保と社会から要請される人材育成につなげていきたいと考えている。